



RIKKYO SCHOOL IN ENGLAND

立教英国学院

— 立教大学系属校 創立 1972年 —

No.1

同窓生からのメッセージ



立教英国学院 同窓生の活躍

岡野 透 校長

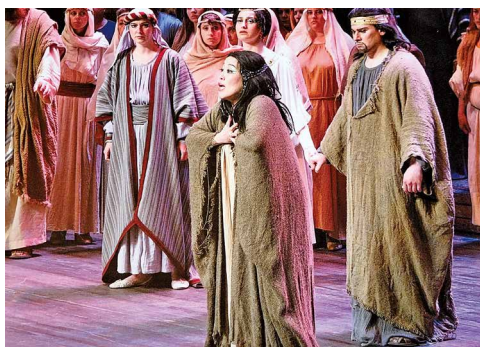
立教英国学院は1972年の開校以来、3,000名以上の卒業生を輩出してきました。本校は、日本の教育を大切にしながらも英国の良さを取り入れた日英融合の学びの場として、多くの生徒を育んできました。本校の同窓生は、世界各国、日本で多様な分野において活躍しています。ビジネス、学術、芸術など、彼らの活躍は

多岐にわたり、学校で培った国際的な経験や語学力を活かして、社会に貢献しています。

2022年には創立50周年を迎え、新たな未来に向けて歩みを進める立教英国学院。本パンフレットでは、本校の教育を受けた同窓生の活躍をご紹介します。彼らの経験やメッセージを皆さまにお届けします。これが最初の紹介パンフレットになりますが、今後多くの同窓生の活躍を紹介していきたいと思えます。立教英国学院が育んだ誇るべき卒業生たちの姿を、ぜひご覧ください。

青盛 のぼる (3期生)

国立音楽大学 声楽学科卒業。卒業後イタリアに留学、文化庁在外研修員として研鑽を積み、日本音楽コンクール声楽部門最高位をはじめ、多数のコンクールで上位入賞。ザルツブルク祝祭劇場、ブカレスト国立劇場、アメリカの劇場など、200公演以上の実績を持つ。イタリアオペラの伝統であり、理想的な歌唱法と言われている Bel Canto (ベルカント、美しい歌) をライフワークに掲げ、31年間の修行を経て帰国。現在、演奏家団体 Dolce Canto Musica (ドルチェカントムジカ) を立ち上げ、オペラ、コンサート、声楽セミナー、後進の指導に力を注いでいる。
ドルチェカント <http://dolcecanto2018.com/>



memories

高校3年間で過ごしました。恥ずかしいほどの劣等生だった私ですが、立教英国学院の一番の思い出は声楽の竹内功先生と出会ったことです。先生が朝礼で歌ってくださった「Caro mio ben」を聴いたとたん、雷に打たれたような衝撃を覚えました。それまでコンプレックスのかたまりの生活を送っていましたが急に人生が歌の道に向かって突き進んで行きました。そんな危なっかしい私を同級生はいつも温かく見守って応援してくれました。そして、宇宿先生ご夫妻をはじめ先生方に一芸を磨く環境を作ってくれました。立教英国学院に入学させてもらえてなかったらどうなっていたか…考えるだけでもゾッとします。

message

立教英国学院の素晴らしい環境の中で日本では味わえない経験を通して、是非、皆さんにあった“天職”を見つけて頂けたらと思います。自分が生活の中で厭きることなくポジティブに発揮できる勉強、趣味…それが天職につながると信じています。在学中は音楽バンドを組んでいる人、ピアノに打ち込んでいる人、スポーツに没頭する人、皆とても輝いていました。きっと今でも、立教英国学院で得た経験は卒業生の心の支えになっていると思います。ふるくさい言い方ですが、素敵な青春時代を過ごしてください。

安田 毅（3期生）

日本電子専門学校 音響芸術科卒業。Studio Melody Park 勤務。作曲・編曲家、レコーディングエンジニア、スタジオ経営、日本音楽著作権協会正会員、Google プロジェクトマネージャー



memories

私が在籍した頃はまだまだ苦勞が多い時代で、プレハブ教室で行われた文化祭のステージはロッカーを横にして並べ、その上に板を渡しただけのものでした。照明装置など贅沢なものは一切無かったので、キッチンから空き缶を調達しスポットライトを自作、調光器やフットライトも手作りしました。また、私のドミトリーにはみんなが持ち込んだ修理待ちのラジカセが常に並んでいました。2003 年には本館のオルガンを修理しました♪



message

時の流れはよどむことなく流れ続け、時代は刻一刻と変化を続けます。私が学院で過ごした頃の良さと、今みなさんが感じる良さはベクトルが違うかもしれません。それでも同じ空の下で同じ釜の飯を食べて仲間と過ごした日々の価値は変わるものではありません。私が「あの頃」をととても大切にしているのと同様に、皆さんが将来大切に思う「あの頃」には常に立教英国学院で過ごした日々があることを願ってやみません。そして「あの頃」を胸に抱いて世界に大きく羽ばたいて下さい。皆さんのご活躍を楽しみにしております♪

江島 晶子（3期生）

明治大学法学部、同大学院を経て、明治大学法学部教授（博士（法学））。法学部・法学研究科（大学院）で憲法・比較憲法・国際人権法などを教えると同時に、人権を実効的に実現する仕組みとして「循環型人権システム」について研究。憲法は、20 世紀後半、国際化・グローバル化によって「人権・民主主義・法の支配」を共有する方向に発展してきたが、近年は、人権に対する懐疑、民主主義の後退、法の支配への抵抗と、再度検証が必要な時代を迎えている。グローバル化が進む研究環境の中で世界中の人々と議論するのが研究活動の中でも一番の楽しみ。



memories

思い出は尽きないのですが、今ある自分につながっていると思われ、大切な思い出となっているのは、様々な国々から集まってくる友人との語らいです。びっくりした話（私のお気に入りにはソヴィエト時代のモスクワ）や、どこも同じだなと思わされた話から、「多様な国がこの地球上に同時に存在する」という感覚と、「そこに人が住んでいる」という感覚をリアルに持つことができました。いわば、学校自体が「世界」を体感できる場所だったことが、その後、世界中の憲法を比較するという仕事につながっています。

message

立教英国学院で過ごした時間の意味は、時がたってからわかってきたものがたくさんあります。日々のルーティーンとオープン・デイ、スクール・コンサート、アウトティングなどの楽しいイベントに追われてあっという間に高校時代が過ぎ去りましたが、一つひとつが今の自分に何かしらの関わりがあることに驚いています。あの頃は「種蒔き」をやっていたのだと（いろいろな種をくださった先生方に心からお礼申し上げます）。どんな芽が出るかは後の楽しみです。いろいろな種を蒔いてみてはいかがでしょうか。

清水(鈴木) 淑子 (6期生)

立教女学院短期大学 幼児教育科卒業。1986 年 ANA 入社、国際線客室乗務員として 16 年勤務。退職後、接客とワイン好きが高じて、千葉県八千代市にて「ワインバー がりばるでい」を開業。2013 年東京(文京区根津 1-12-1)に移転、その立地から立教英国学院卒業生、関係者が集う場所になっている。



memories

勉強が大変でした。中学生活 5 回目の転校だった私は勉強についていけず又英語での授業も加わり大変苦労しました。テニスを謳歌しました。テニス部に入部ししのびのびとした環境でテニスができたこと、あこがれであった「芝」でテニスをする貴重な体験をしました。併せて毎年のウィンブルドンへのアウトティングは思い出深いです。

生涯の友人ができました。居食住を共にした同期、先輩、後輩は卒業しても今尚仲良く昔に戻れる、素晴らしい友好関係を築いています。

message

私はバグダッドに住んでいた中学 2 年生だった 1980 年、イラン-イラク戦争から脱出した経験があります。この時の経験は今でも鮮明に覚えています。目の前で飛び交う高射砲、小刻みに鳴る空襲警報、夜は眠れず食事ものどを通りませんでした。立教英国学院に入れましたが、父、母、家族はバラバラに過ごすことになりました。戦争は誰も幸せにはならない。そう強く思います。人を幸せにするのは「人への思いやり」それさえ忘れなければ、きっと笑い合える世界になるはずです。

関(鎌田) 玲子 (6期生)

上智大学外国語学部英語学科卒業。株式会社ワグテールサポート 代表取締役。以前は三井信託銀行、フィデリティ投資顧問、ハリウィンストン、高級携帯電話 VERTU、クリスチャンディオール、カルティエ等に勤務、現在はカルティエの店舗開発、不動産交渉等、プロジェクトマネジメントとヘラルボニーのコンサルとして業務委託を請け負っている。



memories

銀行員だった父と一緒に、幼少期にロンドンやロスで過ごした後、中 2 の 3 学期から高校卒業まで立教英国学院でお世話になりました。生粋の帰国子女だった為、漢字コンクールでは優秀な小学生より点数が低い事も。学力は全般的に低空飛行でしたが、スポーツと英語だけはトップクラス(笑)文化祭を生徒で企画し役割分担を決め実行する、修学旅行をクラスメートと計画して手配する等、己で考えて実行する日々でした。立教英国学院はそうした企画・実行力を養ってくれた場所であり、仕事にも大いに役立っています。

message

世界の政治を見ていると二極化が激しくなり、多くの物事が白か黒かという対立構造の中、相手の思想や価値観を否定する状況が散見されます。情報過多中、真の情報が何かを見分ける事自体も難しく、一つの情報が民衆の考えを振り子の様に右だ左だと揺さぶる時代。そうした中で常に人間として慈愛の念を持って相手を理解する努力、そして慈恵する心を大切にしながら、対話を重ね、より多くの人が幸せに生きられる、より良い未来につなげる努力をし続ける事が今の時代に求められていると痛感します。是非立教英国という恵まれた環境で、その様な心を養う時間を過ごして下さい。

須藤 達哉（8期生）

慶應義塾大学商学部卒業。三井住友海上火災保険（株）勤務。ニューヨークとロンドンでの計 15 年の海外駐在経験を経て、業務企画部部长として、省庁・業界・財界の渉外を担当し、国際規制・気候変動をテーマとする各種の国際会議に出席。また、日米相互の投資促進を目的に 1967 年に発足した「日本・米国中西部会」の日本側事務局として、米国中西部の各州政府関係者と日々連携・交信を行っている。

memories

高校 3 年生の時、伝統的年次行事である「アンチ戦」（＝サッカー部 vs Non サッカー部（アンチ）の対抗試合）で、アンチ側メンバーで出場。生まれて初めてセンターフォワードを任されて臨んだ試合で、奇跡的にハットトリック（3 得点）を達成し、3 対 2 でアンチチームの勝利に貢献。あの時に決めた 3 得点は、青春時代の熱き思い出として、今も脳裏に焼き付いています。その成功物語に味をしめて、大学では準体育会でサッカーをやりました。しかし、大学 4 年間を通じて 1 点もスコアすることが出来ませんでした。私のサッカー運は高校 3 年生の時のあのアンチ戦で使い果たした（＝あの試合での活躍そのものが、まさに夏の一日の夢だった）ことを悟り、大学卒業後～今日に至るまで、サッカーボールは一度も蹴っていません（笑）



message

英国の自然豊かな環境の中、全寮制で過ごす学校生活から得られる経験と絆はかけがえのない宝物です。在校時には未だそのことに気づかなくても、卒業して歳月が経った後で学院生活を振り返ると、きっとそう感じられることでしょう。立教英国学院に在校している間に、是非とも英語力を磨いてください。これからの時代を生き抜いていく上で、英語力は大きな武器になりますので、様々な資格取得を含めてしっかりと勉勵されることをお勧めします。

森西 徹（14期生）

東京大学、Kellogg School of Management 卒業。株式会社みずほ銀行勤務。みずほ銀行欧州・中東・アフリカ地域における貸出の審査などを行う欧州審査部長を務め、今回のロンドン駐在は 5 年目。審査の対象は、一般事業法人・金融機関・各国政府・プロジェクトファイナンス・レバレッジドファイナンス・ストラクチャードファイナンスなど多岐にわたり、不確実性の高い世界情勢に留意しながら日々勉強し、多国籍の同僚たちと業務に取り組んでいる。



memories

今はもう変わっているかもしれませんが、私が在校していた 1990 年頃の立教生活は色々と制限されていました。入学して最初のドミトリーは 2 段ベッドがずらりと並んだ 30 人の大部屋で、肩幅程度のロッカーに自分の持ち物一式をしまい、パソコンやスマホはなくて外出の機会もほと

んどない生活でした。ただそうした異国での多少の不便さがあったからこそ、学校での生活や勉学に集中でき、今にまで続く仲間たちとの深い絆を築くことができました。

message

立教では、同じ日本人でありながらも多様なバックグラウンドを持った生徒達が、青春時代をイギリスにある寮で過ごす、といった特殊で貴重な学生生活を送ることができます。卒業後 30 年以上経った今でも立教で同じ時間を過ごした卒業生で集まると、それだけの年月が過ぎたことを全く感じさせない楽しい時間を毎回過ごすことができます。在校生の皆さんも是非様々なことに積極的にチャレンジし、仲間たちと充実した立教生活を送ってください。



〔英国〕 RIKKYO SCHOOL IN ENGLAND
Guildford Road, Rudgwick, West Sussex RH12 3BE U.K.
Tel: +44-(0)1403-822107 E-mail: eikoku@rikkyo.uk

〔日本〕 立教英国学院東京事務所
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-34-1 立教学院内
Tel / Fax: (03)3985-2785 E-mail: tokyo@rikkyo.uk